

「第2期川口市地域福祉計画（後期）」 における施策の進捗状況について

1. 実施目的

川口市では、平成26年3月に「第2期川口市地域福祉計画」を策定し、地域福祉に関する取組を進めてきました。平成31年には計画の見直しを行い、「第2期川口市地域福祉計画（後期）」を定めました。このたび「第2期川口市地域福祉計画（後期）」の振り返りを行い、その結果を（仮）「第3期川口市地域福祉計画」の策定に活用するため、各担当課・係においてこれまで推進してきた地域福祉に関する取組の進捗状況を把握、整理しました。

2. 第2期川口市地域福祉計画（後期）の取組方針

《第2期川口市地域福祉計画（後期）の取組方針》

基本理念	基本目標	取組方針	個別方針	掲載頁	
きらり川口 地域ふれあいのまちづくり	1 地域で支えあう仕組みづくり	(1) 多様な分野との連携	① ネットワークづくりとコーディネート体制の充実 ② 分野・組織を超えた相談体制等の仕組みの整備	27 28	
		(2) 地域コミュニティの創造・強化	① 地域に目を向ける活動の推進 ② 地域住民交流の促進 ③ 地域活動ネットワークづくり ④ 社会福祉協議会の活動支援 ⑤ 地域福祉実践体制の強化 ⑥ ボランティア活動の活性化と質の向上 ⑦ 地域福祉活動団体の創出・支援	31 32 32 33 34 34 35	
		(3) ライフステージに着目したコミュニティ活動の強化	① 子育て支援の地域づくり ② 若い世代の活動機会づくり ③ 勤労世代の活動の促進 ④ 退職者等の活動支援	38 39 39 40	
		(4) 地域の見守り活動の推進	① 地域ぐるみの防災・防犯の取組 ② 孤立・孤独を防ぐ地域の活動	43 44	
		(5) 福祉サービスの充実	① 相談・ケアマネジメント体制の整備 ② サービス評価体制の確立 ③ 生活困窮者の自立支援の推進	45 46 46	
	2 仕組みづくり 伝え育む	(1) 情報発信の強化（啓発）	① 利用者の立場に立ったサービス情報提供体制の充実 ② 関係する法制度の周知・活用の促進	49 49	
		(2) 教育（人材育成）	① 地域福祉人材の育成・発掘 ② 差別・偏見を解消する取組 ③ 福祉教育・学習の充実 ④ ボランティア活動のきっかけづくり	51 52 53 53	
		3 その人らしく暮らす 環境づくり	(1) バリアフリー化の推進	① 安全・安心な住環境づくり ② 移動・情報伝達手段のバリアフリー化の推進	55 55
			(2) 自己実現の支援	① 特別支援教育の推進 ② 障害者・高齢者の就労機会の拡大 ③ 障害者・高齢者の社会参加の促進	56 57 57
		(3) 権利擁護の推進	① 権利擁護の推進 ② 苦情解決体制の整備 ③ 虐待防止体制の整備 ④ 市民後見人の育成	59 59 60 60	

連携

第2期川口市地域福祉活動計画（かわぐち市民活動プラン）

3. 実施方法

「第2期川口市地域福祉計画（後期）」に記載されている取組に対して、目指す姿や推進にあたっての課題、進捗状況等を把握しました。

特に、取組の目指す姿に対する進捗評価は、下記の3段階で評価しました。

進捗評価	内容
A	予定どおり進んでいる（8割以上）
B	少し遅れている（5割以上～8割未満）
C	遅れている・未着手（5割未満）

4. 進捗評価結果

進捗評価結果を取組方針ごとに整理すると下記の結果となりました。

取組方針のうち、「多様な分野との連携」「ライフステージに着目したコミュニティ活動の強化」において、全体に対してAが占める割合が8割以上となっています。

基本目標	取組方針	A	B	C	計
1 地域で支えあう 仕組みづくり	1 多様な分野との連携	8	1	0	9
	2 地域コミュニティの創造・強化	16	10	2	28
	3 ライフステージに着目した コミュニティ活動の強化	12	3	0	15
	4 地域の見守り活動の推進	8	10	2	20
	5 福祉サービスの充実	7	3	0	10
2 伝え育む仕組みづくり	1 情報発信の強化（啓発）	9	1	2	12
	2 教育（人材育成）	9	7	1	17
3 その人らしく暮らす 環境づくり	1 バリアフリー化の推進	8	3	0	11
	2 自己実現の支援	7	3	0	10
	3 権利擁護の推進	7	5	0	12
合 計		91	46	7	144

5. 「第2期川口市地域福祉計画（後期）」の推進における成果と課題

「第2期川口市地域福祉計画（後期）」に記載されている取組に対して、目指す姿や推進にあたっての課題、進捗状況等を把握し、以下の通り成果（☆）と課題（◆）をまとめました。

基本目標	内容（☆…成果、◆…課題）
<p>1 地域で支えあう 仕組みづくり</p>	<p>【総括】</p> <p>戦後、産業の工業化に伴う都市への人口流入、家族構成の核家族化、少子高齢化の進展、経済の低成長期への移行など、社会経済情勢の変化に伴い、個人の価値観は多様化し、地域を取り巻く問題・課題も同様に多様化しています。</p> <p>地域におけるこうした様々な問題・課題に対して、これを解決・支援していくためには、地域住民やNPO・ボランティア団体等の市民組織、社会福祉協議会・企業等の社会福祉事業者がそれぞれの立場から身近な問題として捉え、互いに協力し合えるような仕組みの構築が不可欠です。</p> <p>市は、行政としての施策を実施することに加え、地域におけるこうした仕組みづくりを支援するとともに、それぞれの地域における福祉活動に対しても支援し、川口市における地域共生社会の実現を目指しました。</p> <p>☆各分野の相談支援機関の充実が図られています。</p> <p>☆地域支援や健康づくりに関する関係機関との連携がとれています。</p> <p>☆福祉や地域活動への関心を高めるきっかけとなる事業を実施しています。</p> <p>◆各種相談支援事業において、困難ケースや課題が複合しているケースが多くみられ、切れ目のない包括的な相談支援体制の充実が必要です。</p> <p>◆支援を必要とする人のニーズの多様化や子育て支援のニーズの増加がみられ、適切に対応できる体制づくりが必要です。</p> <p>◆重層的支援体制整備事業の実施を見据え、関係機関との連携強化、認知度の向上、緊急時のネットワーク作り、連携強化や役割分担の整理等が必要です。</p> <p>◆町会・自治会が地域活動を行うための支援が十分にできていません。</p> <p>◆連合町会単位で設置されている地区社協活動について、地区により活動状況にバラツキがあります。</p> <p>◆地域活動への参加が一部の市民に留まっています。</p>

	<p>◆地域福祉活動の参加者及び担い手が特定の方に偏っており、潜在的な利用者の掘り起こしと担い手の減少や高齢化が進んでおり、ニーズがあっても対応できないことがあります。</p> <p>◆民生委員・児童委員や保護司のなり手が不足しており、なり手の確保、育成が必要です。</p>
<p>2 伝え育む仕組みづくり</p>	<p>【総括】</p> <p>福祉サービスの提供や地域における活動が地域の課題の解消につながらない大きな理由として行政や地域の活動団体などが発信している様々な情報が地域に十分浸透していないということがあります。</p> <p>地域福祉を推進していくためには、その主役である市民一人ひとりが、地域の情報を主体的に得ようと努めること、自身や地域の問題・課題について考えるための知識を蓄積することやその助けとなるコミュニティとのつながりを得ること、問題や課題の解決に向けて取り組んでいくための手段やしぐみを知ることが必要です。</p> <p>そのために、情報の発信者である市や活動団体は、市民に対しサービスや地域コミュニティに関わる情報を分かりやすくかつ積極的に発信・提供に努めました。</p> <p>また、地域コミュニティ活動が活発に行われ、市民一人ひとりが地域福祉の担い手となる基盤を作るのは「ひとづくり」（人材育成や教育）です。福祉に関わる知識・情報を広く伝え、今の世代が先達から受け継ぎ培った知識・ノウハウを次の世代に伝えていく取組を行いました。</p> <p>☆外国人住民向けのポータルサイトや家庭ごみの分別・排出方法を示す看板等による多言語の情報発信が行われています。</p> <p>☆各福祉サービスの利用に関する周知を行っており、心身の状態や障害等に応じてサービスの適切な利用につなげています。</p> <p>☆地域の担い手育成のために研修や福祉教育の充実が図られています。</p> <p>◆住民主体の福祉サービスの担い手の高齢化や減少が進行しており、担い手の確保が必要です。</p> <p>◆地域の担い手育成のために研修や福祉教育の充実が図られた一方で、受講者等が地域に定着する仕組みづくりが必要です。</p> <p>◆ボランティア活動への参加が一部の市民に留まっており、新</p>

	<p>たな活動者の確保が必要です。</p> <p>◆地域によって、福祉教育、ボランティア学習の機会に差があり、事業の水平展開が課題となっています。</p>
<p>3 その人らしく暮らす 環境づくり</p>	<p>【総括】</p> <p>川口市にはおよそ60万人の市民が暮らしています。そして、この60万人には一人ひとりに顔があり、それぞれが異なる個性や夢をもって暮らしています。</p> <p>豊かさとは、ものがたくさんあることではなく、様々なものがあること。川口市に暮らす60万人一人ひとりの多様性と、それを互いに認め合うことこそが川口市の豊かさであると考えます。</p> <p>そのために、川口市に暮らす誰もがその人らしく暮らしていくことができるよう、多様性に基づく様々な環境づくりに取り組みました。</p> <p>☆住まいや公共施設におけるバリアフリーについて、優先順位をつけて推進しています。</p> <p>☆障害者、高齢者の就労者数は増加しています。</p> <p>☆高齢者向けの社会参加のメニューは充実しています。</p> <p>◆障害者、高齢者の就労者数は増加している一方で、離職を防ぐための就労定着支援が課題となっています。</p> <p>◆高齢者向けの社会参加のメニューは充実しているが、行政主体のものが中心であり、住民主体サービスの検討が必要です。</p> <p>◆障害者向けの社会参加のメニューは外出支援に特化したものが多く、それぞれの関心、興味に応じて気軽に参加できるような文化、スポーツなどのイベントの充実が求められています。</p> <p>◆支援を必要としている人が過ごす通いの場や居場所、地域活動を行う場の拡充が必要です。</p> <p>◆成年後見センターの機能の充実が求められています。</p> <p>◆成年後見制度やあんしんサポートねっと等、権利擁護に関する制度の周知や理解促進が必要です。</p> <p>◆市民後見人の養成の仕組みはできている一方で、研修参加者が少なく、活動機会が少ないことが課題です。</p> <p>◆虐待の早期解決に向けた関係機関との連携及び緊急時に受け入れ可能な施設の確保が課題です。</p>